

仕事の

余白



金城 和光

沖縄和僑会代表幹事

4月中旬、ベトナム和僑会(準備室)との

交流と市場調査のためホーチミン市を訪れた。ベトナムは、長期にわたる中国支配やフランスによる植民地化、米国との悲惨な戦争など、苦難の歴史は沖縄と似たところが多い。その街並みは70年代の沖縄の風景だ。道路は排気ガスと砂ぼこりのせいか、マスクをした月光仮面のようなオートバイ族が占拠し、都市交通は慢性的な渋滞でまひ状態。信号機が少ないため道路を渡るのは命がけだ。現地ガイドは「ゆっくり渡ればオートバイが避けてくれるから大丈夫。でも車は避けないから気をつけてね」。そんなむちゃくちゃな！

アジアの成長市場ベトナム

現在でも週1回は停電する過密都市ホーチミン(約800万人)だが、ワーカーの月給は1万5千円程度で人件費は安い。しかし不動産価格は銀座並みに高騰し、貧富の格差は拡大。郊外では新都心や国際空港の開発が進み、宿泊したホテルでは無線LANが使える、情報インフラは意外と進んでいる。地元の若者は携帯、バイク、車、家を持つのが夢と言う。
新旧ビジネスが混在するベトナム市場(約8600万人)は、平均年齢27歳と今後の経済成長が見込め、未開発な大きな消費市場は多くのビジネスチャンスを感じた。沖縄の企業でも十分に挑戦できる市場だ。まずは自分の目で確かめてみてはいかがだろうか。